

学校だより

Vol.

113

2022年11月発行
(2022.4~2022.9)



Contents

- 02 第61回入学式
校長 入学式式辞
- 04 三主事・専攻科長あいさつ
- 05 各科・各コースの近況
- 09 インターンシップ報告
- 16 女子中高生の理系進路選択
支援プログラム
- 17 地域貢献
- 18 学生の活躍
- 20 TOPICS
- 23 体験入学
- 24 校内体育大会
- 25 福島KOSENコモンズ
整備事業について
- 26 新任教職員紹介



独立行政法人国立高等専門学校機構

福島工業高等専門学校

National Institute of Technology (KOSEN), Fukushima College



第61回 入学式

第六十一回入学式 及び 令和四年度編入学式 並びに 第十九回専攻科入学式 式辞

福島工業高等専門学校
校長 山下 治

新入学生208名、編入学生4名、転入学生1名、専攻科生26名の皆様の福島高専へのご入学をお慶び申し上げます。保護者の皆様には、お子様のご入学を心からお祝い申し上げます。そして、本日、多数の新入学生諸君を福島高専に迎えることができ、教職員、在校生一同、大変うれしく思っています。

またこの度、新型コロナウイルス感染防止のため、簡略化した入学式になったこととお詫び申し上げますと共に、ご理解・ご協力いただいたことに感謝致します。今年度も感染リスクを回避しながらの学校運営になりますが、本校では、コロナ禍の中でも、対策を施しながら例年通りの就職・進学の結果を出すことができます。皆様には、ここ2年の経験に基づき学修機会の確保は十分はかれますのでその旨ご理解いただくと共に、学生自身のみならず保護者の皆様にも感染拡大防止対策へのご協力をお願い申し上げます。

さて、入学生の皆さん、皆さんが入学した高専は、高校のような中等教育機関ではなく、大学と同じ「高等教育機関」に位置付けられます。法律では、「高専は、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする」とされ、実践的・創造的技術者等の養成が重要なミッションとなります。教員は、教

諭ではなく大学と同様に教授や准教授となり、入学生の諸君は本日から生徒ではなく学生になります。高校よりも自ら学ぶ姿勢が重要であることを心がけて下さい。

福島高専では、皆さんが勉強するにあたり、「三つの教育理念」を定めています。

本校の教育理念の第一は、「広く豊かな教養と人間力の育成」です。科学技術を学ぶ目的は人類のWell Being（つまり幸福）に貢献するためにあると言われています。どのように人類の幸福に役立つかを考えるためには、幅広い教養と倫理観、さらに、人生における様々な困難に打ち克つ人間力を育成することが重要です。そして、この教養と人間力が、変化が著しい現代社会を生き抜く力、超スマート社会の中でAIに取って替わられない力になることを意識し、自らも広く豊かな教養と人間力の育成に励んで下さい。

教育理念の第二は、「しっかりした基礎力に基づく創造性と実践性の育成」です。卒業後、幅広い分野で活躍できる創造的、実践的な人間となるためには、基礎知識に裏打ちされた柔軟な発想や企画力を保有する人材となる必要があります。福島高専では、学科横断的な授業や地域貢献活動への参加を通して実践的な人材を育成しています。皆さんには、創造性と実践性を兼ね備え、変化の著しい次世代社会で活躍できる人材に育ってほしいと思っています。

教育理念の第三は、「国際性とコミュニケーション能力の育成」です。グローバル化に伴う国際競争の激化に伴い、我が国を取り巻く状況は激変してきています。このような背景を踏まえ、皆さんには英語力を向上させることは言うまでもなく、国際的価値観をSDGs(サステナブル・デベロップメント・ゴールズ)などを通じて学んでもらいます。異なった環境に住む相手の考え方を理解した上で、その相手とコミュニケーションをとれる能力を身につけてほしいと思っています。

さて、この三つの教育理念を達成するため、皆さんにはこれからの5年間、次の「四つの心構え」を念頭



において勉強してください。

まず、第一に、「ルールを守る」。当たり前のことですが、学校で定められた規則・規律を守り、皆が学校で快適に生活出来るように努力してください。そして、この習慣が社会における信用の基礎にも成ります。今は、コロナ禍でもあり、一人のルール違反が学校全体の休校につながることも想定されます。「自分一人くらいでもチームを壊す」こともあるのです。「ルールを守る」こと、しっかり心がけてください。

第二に、「自ら学ぶ」。授業で教えてもらうだけではなく、自ら疑問を持ち、自ら調べ、わからないところを質問して確認する姿勢を保ってください。皆さんは、目的を持って、この福島高専に入学してきたはずです。その目的に向かって、自ら学習する姿勢を保ってください。高専では、自宅に戻ってから予習や復習を行わない限り、勉強についていくことは困難です。勉強ができないことを他人の責任にしない。人の責任にしても結果は自分に来るのです。常に目標を持ち、勉学の動機を失わず能動的に勉強してください。そして、良い成果を求めるなら常に1%の向上を目指しましょう。例えば、1%ずつ向上させながら365日を過ごした場合と、毎日1%ずつ手抜きをしながら過ごした場合では、一年間でどのくらいの差ができると思いますか？ 1.01^{365} 乗は37.8で、 0.99^{365} 乗は0.0255です。1年後、1%の向上と1%の手抜きで、その差は、約1500倍。もちろん計算上の話で現実にこんなに差は出ませんが、「継続は力なり」です。人の能力の差は、日々の努力で生じるということを意識して勉学に励んでください。

第三に、「挑戦する」。地域貢献やインターシップそして課外活動にも挑戦してみてください。高専では、様々な活動に参加する機会が与えられます。文化部やスポーツ部に所属するのはもちろん、国家プロジェクトや地域貢献活動、海外で行われるインターシップ・留学等にも参加することができます。自らの学業と両立させながら様々な活動に参加し、集団や組織での活動能力やコミュニケーション能力を身につけてください。

第四に、「支え合う」です。人は支えあって生きていくものです。お互い助け合いながら、高専生活を過ごすため「スマホではない」仲間を作ってください。高専在学中の友人やクラスメート、クラブ活動の仲間は、一生の友人になりますし、これらの友人によって皆さんの学習も円滑に進みますし、その結果として人間力も育まれます。自分一人できないことも仲間がいれば実現できます。そして、その人間力が次世代を生き抜く力になることを忘れないでください。この福島高専で学ぶ5年間は必ずや皆さんが実社会で生き抜く力を育ててくれます。日々、健康に気を付けて、夢と希望を持って勉学に励んでください。

次に、専攻科への入学生諸君。皆さんは、本科5年間で修得したことを基礎に、さらに高度な基礎科目と専門科目を学ぶことになります。専攻科学生は、学会などで他大学の学部学生はもちろん大学院の学生と競いあうことも十分可能です。そして、専攻科2年の課程を終え、学位審査に合格すると、大学改革支援・学位授与機構から大学卒業と同じ学士の学位を得ることができますが、皆さんは、学部レベルを超える専門能力を得られるでしょう。また、皆さんには、グローバル化の時代にあって、留学や海外インターンシップなどに挑戦し、国際的な活躍が可能な基礎を育てていただきたいし、これからの超スマート社会を生き抜けるよう、広く豊かな教養と人間力を更に磨いていただきたいと思います。現在コロナ禍で活動に制限もありますが、ネットワークは世界につながっています。後輩達の良き手本となることを期待しています。

学生諸君、人生を築くのは皆さん自身です。人は意志と努力によって人生を作り上げることができます。しっかりした自らの「意志」を持ってこれからの道を歩んでください。

最後になりますが、新入学生諸君全員に、新型コロナウイルス対策を含め日々健康に気を付けながら、勉学や人間形成に励み、本校を巣立つまでに大きく成長して、将来、国内はもちろん国際的にも活躍できる実践的・創造的技術者に育つことを祈念して式辞といたします。

三主事・専攻科長あいさつ

近況報告



教務主事
緑 川 猛 彦

昨年度より教務主事を拝命しております都市システム工学科の緑川です。

今年度も昨年度と同様に、入学式を学生と保護者の2クラスに分割したりリモートで実施しましたが、with coronaを反映し新学期から通常の授業を実施してきました。しかしながら、7月下旬に1クラスで新型コロナウイルス感染者とその濃厚接触者が複数名確認されたことから、そのクラスのみ5日間の学級閉鎖を実施しましたが、それ以降は大きな変更はなく予定通り夏季休業に入りました。夏季休業中はぼちぼちと感染の連絡が学校に届いていましたが、特に混乱なく経過しており、校内体育大会や4、5年生の学科行事も予定通り実施することができました。

さて、昨今ICT技術を生かした新しい価値やサービスが創出され「超スマート社会」が未来の姿として示されていますが、これからの社会では、データに基づいた数理的思考により解析・問題解決を行う能力が必要とされています。これらの背景から福島高専では、文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」に申請していましたが、この度無事に認定されることになりました。この教育プログラムは低学年の必修3科目から構成されており、学生は特に意識することなく数理的思考が自然に身につくようになっていきます。

今後も基礎学力の充実および実践力の向上にむけて努力していきたいと思っておりますので、今後ともご支援のほどよろしくお願い致します。

学生生活を楽しく！



学生主事
笠 井 哲

学生主事6年目、一般教科の笠井です。昨年度まで、学生の活動を強く制限していました。今年度は感染対策をして、できるだけ平常に戻していきます。7月には、

学生会が正面玄関に3年ぶりの「七夕飾り」を復活させ、9月には、2年ぶりに「校内体育大会」を実施しました。

この文章が届く頃に、保護者の皆様の中には、4年ぶりに対面方式で復活した11月の「磐陽祭」を、ご覧になった方もいらっしゃるかと存じます。さらに12月には、学生会が新企画「クリスマスイベント」を行う予定です。お子様が「福島高専で良かった」と思えるよう、学生生活を楽しむ支援を続けていきます。

さて、お子様の安全・安心のため、保護者の皆様にもご理解とご協力賜りますよう、今年度もTeamsの「学生委員会2022」に、学生生活の規則を載せました。最近の問題行動の多くは、SNSが原因です。トラブルの撲滅を目指し、8月にはLINE（株）提供の教材により、9月には警察官による「SNS講習会」を実施しております。警察だけでなく、いわき市医療センターと連携したことで、「チーム福島高専」体制が完成しました。どうか本校を信頼し、お子様をお任せください。よろしくお願いいたします。

新しい寮棟のご紹介



寮務主事
赤 尾 尚 洋

本年度より寮務主事を拝命しております機械システム工学科の赤尾と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

今年度の磐陽祭は48名の新入寮生を迎え、199名の寮生でスタートしました。

今年7月に始まった第7波を受け、市内の感染者数が激増している中、寮としては寮内での感染拡大を防ぐべく感染対策をさらに徹底しているところです。また寮内の行事に関しましても、制約はありますが出来る限り実施するようにし、寮生のストレス解消や思い出づくりにつながるようにと願っております。

さて現在磐陽寮では、曙寮（国際寮）が昨年末に完成し、また若葉寮（女子寮）も新しい建物がこの9月に完成しました。さらに来年度は食堂棟建設等が計画されています。新しくできた国際寮および女子寮は完全個室となっており、ブロックごとに広い交流スペースを設けたシェアハウス型となっております。これにより学年・学科や国籍をも超えた多様性を持った交流を期待しています。

磐陽寮としましては今後も広く国内外から学生を受け入れ、学生の様々な成長の手助けとなるよう努力して参ります。保護者の皆さまにおかれましても、今後ともご支援ご協力のほどよろしくお願い致します。

サステイナブル イノベーション



専攻科長
原 田 正 光

今年度の専攻科には、第19回生として新入生26名が入学しました。2年生26名と合わせると、5つの専攻の分野で52名の学生が在籍しています。専攻科では、本科の時と環

境を大きく変えずに学生生活を送り、高度な専門知識や研究能力を身に着けて修了し、学士の学位を得ることができます。大学卒業と同等の資格での就職、あるいは更なる専門的な能力獲得のために大学院への進学、等の進路選択が可能です。就学のための経済的な負担を少なくして、2年間そのような環境に身を置きたいと考える学生にとっては、専攻科という選択は魅力的だと思います。

専攻科学生には、自らの足元を見つめてしっかりと基礎固めをしてもらう一方で、学校の外の環境、地域であったり世界であったり自らのまわりの環境に目を向け視野を広げる学習を意識してもらいたいと思います。

今年度は、福島イノベーション・コースト構想の一つ、福島国際教育研究機構の設置場所が浪江町に決定し、いよいよその準備が始まります。本校も、この機構で進められる人材育成には関わることになり、専攻科もおおいにその役割を担っていくこととなります。これからの技術に期待されるサステナビリティを視野に、社会や地域に貢献できる人材の育成が専攻科にも一層求められます。

各科の近況 [本 科]



一般教科の近況

一般教科長 根本 昌 樹

3月に長年本校教育にご尽力された物理科鈴木三男先生、英語科宮澤泰彦先生が定年ご退職されました。お二人の先生方は在職中一般教科長や副校長を歴任され学校全体の重要な要職にあり、更に学生の教育指導に大変熱心に取り組まれておりました。4月以降は再雇用教員として授業を担当していただき大変心強く思っています。今年度はコロナ禍の中ではありますが通常通りの学事予定で進んでおり、学生もそれぞれにコロナ禍の学校生活を工夫しながら送っているようです。一般教科は主に1年生・2年生のクラス担任や専門教育の基礎となる基礎教育を担当しています。特に低学年の学生にとっては単位取得や進級の不安がある中で「高専」という特殊な学校生活をより充実するため一般教科教員全員で学生指導に当たっています。学生皆さんも自分一人で悩むことなく各教科担当教員へ相談して欲しいと思います。またその中で自力で解決する力も身に付け成長して欲しいと願っています。

4月には英語科に泉頼尚貴先生が着任されました。大変フレッシュな先生で授業を通して学生と交流を深めていることと思います。また10月には英語科に郭 飛鴻先生が着任されました。郭先生は高等学校での教員経験を持った先生です。高校教員としてのご経験が授業に生かされると期待しております。一般教科全員で心身ともに健全な学生を育むため努力してまいります。



機械システム工学科の近況

機械システム工学科長 高 橋 章

機械システム工学科になりまして6年目となりました。カリキュラムを一部更新し、新しい科目や名称変更となった科目が今年度の1年生から導入されております。新しい科目は「機械システム工学概論」であり、機械システム工学科でこれから学ぶ専門科目の概要を全教員から学ぶということで、10月より授業が開始されております。名称変更は、「機械工学基礎」が「機械システム工学基礎」となりました。それから、新しいカリキュラムは大学と同じように90分を基本とした時間割となるよう作成されています。

新型コロナウイルス感染症については、対策を講じた上で現在まで休校することなく対面授業を行っており、以前と同等の教育効果となっております。

5年生の進路につきましては、9月末での状況で、国立大学編入学合格者が19名、専攻科入学合格者が4名、就職内定者(県外)が10名、就職内定者(県内)が4名となっております。残る10名は公務員試験をはじめとして、これから決まっています。進学合格者が23名と在籍者数のおよそ半数が進学となります。この人数は、昨年度よりも多くなっています。本校が進学にも有利であることを再確認できました。

今後も優秀な学生を育成するために機械システム工学科教員一同精励致しますので、ご家庭からのご支援・ご協力も引き続き宜しくお願い申し上げます。



電気電子システム工学の近況

電気電子システム工学科長 伊 藤 淳

新入生42名、3年生への留学生1名、4年生への編入学生1名、転入生1名を迎えた令和4年度は、すでに半年以上が過ぎ、すっかり秋の気配が濃くなっております。コロナ下ではあるものの、就職、進学活動は順調に進み、5年生の進路はほぼ決定しています。また、4年生はインターンシップも済ませ、工場見学を行い、就職や進学に向けて、意欲を高めているところです。3年生以下は、各種資格試験に挑戦するなど、自己研鑽に励んでいます。

資格試験に挑戦する学生が多い中で、昨年度末には、デジタル技術検定の受験者の中で、成績が特に優秀であったため、学生個人が文部科学大臣賞を受賞し、これとともに、成績優秀者が多かったことから、学校としても文部科学大臣賞を受賞することができました。学生一人一人が意欲をもって取り組んだ成果の表れと思っております。

また、中学生対象の体験入学では、学生主体によるデモ実験や学科の概要等の説明が行われ、ここでも、学生の活躍が光っていました。

本学科の教職員に関しては、山本先生が嘱託教授の任期終了、また、昭和から永きにわたり、教鞭をとっていただいた大槻先生が、3月に定年退職となり、4月からは嘱託教授となりました。代えがたい教員が退職してしまいましたが、学生にとって、より魅力のある学科となるよう教職員が一丸となり教育や研究に取り組んでまいります。今後とも、ご支援・ご協力をお願いいたします。

各科の近況 [本科]



化学・バイオ工学科の近況

化学・バイオ工学科長 内田 修司

マスク、三密回避、手指消毒などコロナ感染予防策が2年目でかなり定着し、全面リモート授業を回避して、日常に近い状態を維持できるよう取り組むことができております。ご協力、ご支援頂きありがとうございます。

3月に嘱託教授の青柳克弘名誉教授、田中利彦先生(定年)、さらに羽切正英先生が退職されました。4月には助教として三上進一先生、この10月には准教授として加藤 武先生を迎えることができ、化学・バイオ工学科はフルスタッフとなりました。

今年度の本学科のクラス担任は、1C 澤田先生、2C 小田先生、3C 内田、4C 押手先生、5C 車田先生となっています。5年生は進路選択期とコロナの感染拡大期が重なりましたが、車田先生のご指導により希望する進路の選択ができています。4年生は9月末に学科行事として、小名浜精錬(株)様、クリナップ(株)様から「企業説明」、福島県環境課様から「中間貯蔵施設の今後」などの講演を頂き有意義な企画とすることができました。開催にあたりご協力頂きました方々に御礼申し上げます。

今後も社会の要請に応えられる人材の育成に取り組めますので、よろしくお願いします。



“Civil(シビル)魂”は、健在です！

都市システム工学科長 齊藤 充弘

今年度もコロナ禍での活動を強いられていますが、昨年度までの「できない…」という雰囲気にならなく、感染症対策を十分に行いながら「どのようにしたらできるか」という姿勢で対面授業とともに学校行事も行われています。9月24日(土)ー25日(日)には体験入学が開催され、「あなたも、まち(社会)のお医者さん！」をキャッチフレーズとして、5年生が学科の魅力を発信してくれました。朴とつな学生による発表内容は決して派手ではなく、一見地味に見えるかもしれませんが、自分の言葉で日頃の学習内容や専門分野の魅力を紹介しており、よく聞くと内容がわかりやすく共感を得ることができたのではないかと思います。

また、同じく27日(火)ー28日(水)には校内体育大会が開催され、1年生から5年生までクラス一体となって各種競技に臨んだ結果、学科として見事総合優勝を飾ることができました。さらに、翌29日(木)ー30日(金)には学科行事を実施して、4年生は石巻～気仙沼～南三陸と東日本大震災の遺構を見学し、5年生は横浜港～みなとみらい～山手と新旧開発地区を見学し、いずれも大規模な復興工事で都市開発について学んできました。そこには、まじめで素直に取り組む学生の姿勢と、学校行事にはクラスや学科全体で協力し合って臨み、一体となって喜び、楽しむ学生の満面の笑顔があふれています。このシビル魂と雰囲気は、60周年を迎える長い年月が過ぎる中でも諸先輩方より引き継いでおり、変わることなく健在です。それを見守り支える立場として、次の10年にむけても本学科の、福島高専の良さとしていかして継続しながら、教職員と学生が一体となって成長・発展していきたいと思います。ご家庭におきましてもご支援、ご協力いただけますようよろしくお願いいたします。



ビジネスコミュニケーション学科の近況

ビジネスコミュニケーション学科長 湯川 崇

4月から新しく学科長を拝命しました。よろしくお願いいたします。

今年度ビジネスコミュニケーション学科には1年生43名が入学し合計198名が在籍しています。

3月にビジネスコミュニケーション学科への改組後初の卒業生を送り出し7年目を迎えた今年度、カリキュラムを見直しました。学科の目標であるグローバルに活躍できるビジネスパーソンの育成に必要な語学・経営・情報・経済・会計・数理・人文の7分野の基礎を身につけ、さらに各自興味のある分野の専門知識を深く学ぶための新カリキュラムをスタート

しています。

教員の異動については、4月に高木信太郎先生、8月に大仁田香織先生が赴任しました。高木先生は国際経済学や環境経済学などの授業を担当しております。大仁田先生は大学等の「復興知」を活用した人材育成基盤構築事業に関わる教員として学生の教育に尽力いただいております。

5年生の進路希望は就職が10名、進学が29名と進学の割合が多い状況です。文系の大学の編入試験は秋から本格化します。

全員が希望する進路の目標を達成して卒業できるよう、教職員一丸となって支援しておりますので、ご支援ご協力の程よろしくお願いいたします。

各コースの近況 [専攻科]



生産・情報システム工学コースの近況

生産・情報システム工学コース長 植 英 規

生産・情報システム工学（PI）コースは、エネルギーシステム工学コースと同様、本科の機械システム工学科、電気電子システム工学科の卒業生で構成されるコースで、令和4年度は、1年生4名（機械2名、電気2名）、2年生4名（機械2名、電気2名）が在籍しています。現在もマスクをつけた生活が続く状況の中、学校での日常に多少の影響を感じることもありますが、この原稿を書いている時点では授業や特別研究では通常の形態で実施できることも多くなってきています。2年生の進路については、これまでに全員の就職が決定しています。1年生のインターンシップについては、今年も各会社等の状況に応じて、対面とオンラインを使い分けた活動を行っています。

入学当初からCOVID-19による制約のある学生生活を送っているのが現在の専攻科生です。オンラインでの活動にも慣れた様子で（？）取り組む姿に頼もしさを感じる一方で、今後はPCの画面越しではない現実の体験もさらに充実させていってほしいと思います。学生たちが勉強や研究に打ち込み、思う存分に学生生活を楽しめるよう、今できることを見極めて学生のサポートをしていきたいと思っています。



エネルギーシステム工学コースの近況

エネルギーシステム工学コース長 鄭 耀 陽

今年度、エネルギーシステム工学コース（ESコース）の新入生は昨年度より1名増の6名で、在学中の2年生5名を加えると11名の在籍となります。今年度、ESコース6名の新入生のうち3名は本校機械システム工学科卒業生、3名は本校電気電子システム工学科卒業生となっています。生産・情報システム工学コースとエネルギーシステム工学コースは機械システム工学科と電気電子システム工学科卒業生より混成され、シナジー効果が期待されます。最近になって新型コロナウイルス感染が大分落ち着きましたが、影響はまだ続いています。教員と学生は一丸となり、知恵を出し合って乗り越えようと頑張っています。後期の講義や特別研究活動はオンラインの遠隔ではなく通常の対面式で行えることを祈っています。今のところは新型コロナ感染の拡大を警戒しながら通常の学校生活を平穩に送っています。7月13日は1年生、7月20日には2年生の特別研究の中間発表会を計画通り機械・電気分野ごとに分けて対面式で実施しました。2年生5名の進路については、3名は企業就職、1名は大学院進学、1名は体調優れず1年間休学することとなっています。

今後も本コースでは社会情勢を見極めながら、臨機応変に学生たちの充実した学校生活と研究活動をサポートしていくと考えております。



化学・バイオ工学コースの近況

化学・バイオ工学コース長 柴 田 公 彦

今年度は本校化学・バイオ工学科卒業生5名を新入生として迎え、2年生5名とあわせて10名の学生が在籍しております。

1年生5名のうち4名はこれまで卒業研究を行ってきた研究室にそのまま所属し、残り1名は新たな研究室での研究活動がスタートしました。1年生は夏季休業期間に企業や大学等でのインターンシップを全員予定していましたが、今年度も新型コロナの影響などで企業でのインターンシップが中止となり、代わりに企業研究に取り組んだ学生もありました。いずれにしてもこの経験を今後の進路について深く考えるきっかけにしてほしいと考えています。

2年生については4名の卒業後の進路（大学院進学1名、就職3名）が決まり、あとの1名はこれから大学院入学試験を受験する予定です。現在2年生は専攻科修了、学位取得に向けて研究活動を中心とした学生生活を送っております。コロナ禍の影響で研究の進展が遅れた学生もありますが、多くの学生が学会等において研究成果の発表を行っています。今年度も残りわずかとなりましたが、引き続き、ご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

各コースの近況 [専攻科]



社会環境システム工学コースの近況

社会環境システム工学コース長 菊地 卓郎

今年度は2年生9名、1年生5名の合計14名が在籍しています。

2年生の進路は全員が決定し、大学院への進学が1名、就職が8名で建設コンサルタント、インフラ(道路、鉄道、ガス)、公社・官庁といずれも人々の生活を支える業界への就職を決めています。現在は学位取得に向け、日々研究活動に励んでいます。

1年生は夏季休業期間を中心にインターンシップへ参加していますが、現在取り組んでいる研究分野に関連する企業や大学院、就職を希望している企業というように専攻科修了後の進路を見据えた実習先を選んでおり、今後の進路選択に大きなプラスとなる経験を積んでいるようです。

1、2年生ともに研究成果を積極的に外部発表しています。こういった発表会もそうですが、進学・就職活動、インターンシップもWithコロナ時代となり、学生達もオンサイト、オンライン、ハイブリットとうまく使い分け、対応しながら、様々な活動に取り組んでいます。学生の柔軟な対応力に私たち教員も学びながら、ともに教育・研究活動に励んでまいりますので、今後ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。



ビジネスコミュニケーション学専攻の近況

ビジネスコミュニケーション学コース長 湯川 崇

今年度は1年生6名が入学し、2年生の3名と合わせ合計9名が在籍しています。

1年生で実施されるインターンシップは、5人が民間企業、もう1名はいわき市役所にて実施しました。新型コロナウイルス感染症の影響でリモートでの実施もありましたが、高専では学べない社会人としての経験を積むことができ、今後の学習のモチベーション向上につながられたのではないのでしょうか。

2年生の進路は全員が就職で、各人が第一志望の民間企業から内定をいただいております。福島高専の本科と専攻科での教育内容が評価されたことをうれしく思います。

2年生は現在、専攻科の修了に向けて専攻科2年間の学修の総まとめである特別研究の成果としての論文を執筆しています。福島高専専攻科は独立行政法人大学改革支援・学位授与機構の特例適用専攻科の認定を受けており、学位試験を受験することなく専攻科修了時に学士の学位を取得することができます。

専攻科は2年間という短い期間に、授業や特別研究、インターンシップ、就職活動などやらなくてはいけないことが多くあります。全員が希望する進路の目標を達成して修了できるよう、教職員一丸となって支援していきたいと考えております。



本校では、4年生と専攻科1年生に、「校外実習」「インターンシップ(A.B.C)」などの科目を設定し、企業などの協力を得て、インターンシップを実施しています。校外、実務の場に身を置くことで、技術者の役割を認識すること、学校で習得している知識が実社会でどのように活用されているかをそれぞれの学生が理解することを目的としています。

本校では、こうした経験を今後の学習に活かし、社会人として必要とされる知識などを卒業までに身につけるように、教育と指導を行っています。

インターンシップを終えて

機械システム工学科4年 伊藤 隆尚

私は、8月29日から9月2日の5日間、製品が自分の手元に届くまでにどのような技術と物の流れがあるのかを学びたいと考え、花王ロジスティクス株式会社のインターンシップに参加しました。花王ロジスティクス株式会社は、主に花王製品の在庫管理や配送に加えて小売チェーンの共同配送事業を行っており、暮らしの必需品を全国に届ける“花王グループの最終ランナー”として花王株式会社と全国の店と客をつないでいる会社です。

会社説明や略歴紹介では、花王の製品製造から出荷の流れ。日々何気なく行っている“モノや体を洗う”という文化はいつ起こり、どのように発展したのか。また、花王株式会社はどのように発展して今に至るのか。などの説明を受けました。洗浄能力が高く、近くのお店で花王製品を買うことができる世の中に生まれて良かったと改めて実感しました。

ロジスティクスセンターでは、自動化設備の作業と人手を用いる作業をモノの流れに沿って見学し、物流に機械がどのように関わっているのか。

物流エンジニアの仕事内容や使命。現在の物流課題について説明を受けました。それによって、自動化を行うことのメリット・デメリットや出荷作業の半分以上は人手で行われていること。花王ロジスティクスの物流エンジニアは、設備の安定稼働と高効率化を図ることによるコストパフォーマンス向上と、傷をつけたり個数を間違えたりすることが無いように出荷することによる製品・サービスの品質保証を重要視しているが、何よりも安全第一の使命を抱いて仕事をしていること。多様なニーズに応えるには人手と時間が足りていないため各地のロジスティクスセンターで独自の努力をしていること。以上3点のことを学ぶことができました。

最後に、コロナ禍でも貴重な場を設けてくださった花王ロジスティクス株式会社の担当者様に御礼申し上げます。

インターンシップを経験して

電気電子システム工学科4年 村松 蒼大

私は5日間の風力インターンシップに参加させていただきました。このインターンは東大先端研といわき市、福島高専が連携して毎年実施されている事業で、風力産業を市内に根付かせることや風力業界の人材育成などを目的としています。インターン自体は北九州市の株式会社北拓で行い、有明高専と北九州高専の学生と一緒に風力発電に関する講義や実際の風車を用いた点検作業などの実習、班に分かれてのグループワークなどを行いました。

まず講義では、風力発電の仕組みやメンテナンス、取組や、ロープ高所作業などについての知識を身に付けることができました。その講義で学んだ内容はすべて実習内容につながっていて、聞くだけでなく実際に見たり触れたりしてより理解を深めることができました。

そして、実習ではブレードメンテナンスや内視鏡による増速機のベアリングの確認、安全帯を用いた高所作業の疑似体験、実際の風車内での定期点検を行いました。どの体験もはじめてのことで印象に残っていますが、特に実際の風車に登ったことの印象が強く残っています。風車は高さが約70mあり、はしごで登るだけでも翌日筋肉痛になるくらい大変で、そこから風車内で作業するのは

とても大変でしたが、頂上のナセルからの景色は絶景でした。

また、グループワークでは初日に3つの課題が出されて、最終日までに班でその課題について話し合い、スライドを用いて発表しました。限られた時間内に考えをまとめてスライドを作成するのは大変で、コミュニケーションの大切さと発表することの難しさを改めて実感でき、とても良い経験になりました。

今回のインターンシップを通して、風力をはじめとした再エネ事業にとっても興味が湧きました。お世話になった東大先端研やいわき市職員の方、北拓の方々には皆さん良い人たちがばかりで、多くのことを学ばせていただきました。このインターンで学んだことを活かして、さらに再エネに関する理解を深めていきたいです。



インターンシップに参加して

化学・バイオ工学科4年 盛川 美鈴

私は、高専卒業後は、環境中の有害物質を調査する分析関係の仕事に携わりたいと考えています。そこで、サンプルの前処理から、分析機器を用いた分析までの一連の流れを学びたいと思い、株式会社クレハ分析センターのインターンシップに参加しました。

インターンシップでは、分析提案本部 環境部 環境試験室 極微グループで、主に排水・排ガス中に含まれるダイオキシン類の分析について見学させていただきました。分析するサンプルの前処理過程では、学生実験でよく扱う器具や装置だけでなく、初めて見る装置も多くありました。そして、その器具や装置の表面には番号が付いていました。操作確認・再実験などのチェックを的確に行うために、器具の番号や行った操作などを記録すると伺いました。私たちも学生実験では「実験ノート」に行った操作や結果などを記録しますが、極微グループでは実験ノートよりも細かく「誰が・いつ・どのような操作を行ったのか」まで記録していました。また、装置を低濃度用、高濃度用、標準用で使い分けることで、他の器具への汚染を防ぎ、誤差を減らすために工夫していました。

分析では、ガスクロマトグラフ質量分析計（GC/MS）を実際に見ることができました。GC部分で使用するカラムの種類、MSの種類、SIM法という分析方法など、本物の機器を見ながら学校の授業よりも詳しく学ぶことができました。

実習前は、分析は化学や機器分析の知識だけが必要とすると思っていましたが、データをまとめるためのExcelのスキルや、報告書を作成するためのWordのスキルも必要になるということも知ることができました。さらに、分析結果が顧客との信頼関係に直接つながるので、ミスを即座に見つけて改善するための工夫が至る所にありました。実際の体験を通して、スペシャリストだからこそできる技術・企業対応や努力を目にすることができました。この経験を残りの高専生活に活かし、自分の夢を実現できるように努めます。



2社のインターンシップに参加してみて

都市システム工学科4年 横山 亜衣

私は進路を考える中で建設業界でも様々な選択肢があることを知り、自分がどのような職業に就きたいのかイメージできずに苦戦していました。今回のインターンシップでは、職種の異なる2つの会社で実際の業務を体験し、自らの経験により建設業界を理解することを目的として、株式会社郡山測量設計社と西松建設株式会社（北日本支社）のインターンシップに参加させていただきました。

初めに参加させていただいた株式会社郡山測量設計社は測量や設計を主体としている地域密着型の建設コンサルタントであり、10日間の実習では測量と設計について学びました。

測量部では座学やドローンを使用した写真測量、自動追尾TSを使用した路線測量と実際の災害現場で平面・縦横断測量、3D-CADとVR実習を行いました。

設計部では河川事業や土砂災害についての座学、県内の河川構造物・砂防ダム・産業団地の造成の現地調査、CADを使用した道路の縦断計画と横断計画を行いました。

次に参加させていただいた西松建設株式会社は道路やダム等公共施設の建設事業、開発事業及び不動産事業を行っている準大手ゼネコンであり、

5日間の実習では土地区画整地の造成工事の現場で施工管理と測量業務について学びました。

施工管理については、座学や現場見学を通して重機・作業の安全管理、盛土の施工管理、写真管理、品質管理について学びました。

測量業務については、座学や水準測量、切土の丁張の設置を行いました。

他にも協力会社の方々と朝礼・作業打合せにも参加させていただきました。

2社のインターンシップに参加することによって、業務による厳しさ・やりがいの違いを肌で感じることができました。また自分の未熟さを知ることによって視野が広がり、将来を具体的に想像できるようになりました。今まで憂鬱だった進路も前向きに考えられそうです。暖かくご指導いただいた社員の皆様に感謝いたします。



インターンシップを通して

ビジネスコミュニケーション学科4年 吉田 健太郎

私は8月22日～8月26日の5日間、エムオーテックス株式会社様（以下エムオーテックス）のインターンシップに参加させていただきました。

私は主に情報系のことを学んでおり、IT系の職種の中でも「営業」に強い関心があったため、エムオーテックスのインターンシップに応募しました。

エムオーテックスは大阪に本社を置く、情報セキュリティ製品の企画や開発、販売、導入サポートなどを行っているIT企業です。私が参加した「カスタマーサービスコース」では、様々な業務体験を通して、主に2つのことを学びました。

1つ目は、IT系の職種は決して営業・開発だけではないということです。このインターンシップに参加する以前の私は、「IT企業は営業とプログラマー」というイメージを持っていました。しかし、今回のインターンシップで体験したのは、ちょうど営業と開発の中間と言える業務でした。まず、お客様が製品を購入した際に導入支援を行う業務です。実際に製品を使いながら導入支援の一部を

体験しました。次に、問い合わせに対してサポートを行うカスタマーサポート業務です。こちらでは、問い合わせに答えるため、実際に操作手順を確認しながらメールを作成するグループワークを行いました。どちらの業務に関しても、製品についての知識（開発）と伝える力（営業）が求められる業務でした。

2つ目は、仕事をする上でも勉強が必要不可欠ということです。1つ目で書いたように、製品の使い方やメールの書き方など、様々なことについての知識が必要です。日々勉強が必要だということを知ることができました。

今回のインターンシップでは、学校ではできない貴重な体験をさせていただきました。特に、IT企業とその業務について知ることができたことが良かったです。この経験は、これからの生活や将来の意思決定に役立てていきたいと思います。

最後になりますが、ご担当いただいた社員の皆様に心より感謝申し上げます。

インターンシップ報告 産業技術システム工学専攻 生産・情報システム工学コース(機械)1年 薄葉 健大

私は、8月22日から26日までの5日間、住友化学株式会社千葉事業所エッセンシャルケミカルズ研究所のインターンシップに、9月6日から9日までの4日間、東京電力ホールディングス株式会社のインターンシップに参加させていただきました。

エッセンシャルケミカルズ研究所では、ポリマーの開発、環境負荷を低減する触媒や製造プロセスの開発・改良に力を入れて取り組んでいます。今回のインターンシップでは、実験・分析業務を体験しました。また、東京電力では、特に再生可能エネルギーの発電事業に特化した東京電力リニューアブルパワー株式会社や東京発電株式会社の事業について学び、水力と洋上風力の発電所の見学を行いました。

住友化学の実験・分析業務では、触媒調製・成型、窒素吸着処理、XRD測定、GC分析を行っていく中で得た結果について検討・改善を行いました。千葉事業所では安全対策を徹底することの重要性について学ぶことができました。また、研究所で働くイメージを持つことができ、将来への視野を広げることができました。

東京電力では、会社の事業概要についての説明

を聞き、実際の発電所見学や質疑応答を行っていく中で、再生可能エネルギーを主力電源化するための取組や発電に関する技術について学びました。様々なことを吸収し、インフラ産業や電力業界に関する知識や理解を深めることができました。

今回のインターンシップを通じて、学校生活では味わうことのできない数々の貴重な経験を積むことができ、成長や自信につながったと感じています。また、新型コロナウイルス拡大の影響が懸念されていましたが、対面でのインターンシップが実現し、対面だからこそ感じ取れたことや学ぶことができた部分も多くあったため、そういった学びや気付きも大切に、今後に活かしていきたいと思います。インターンシップで大変お世話になった皆様に心より感謝申し上げます。



インターンシップに参加して 産業技術システム工学専攻 生産・情報システム工学コース(電気)1年 真船 真幸

私は、9月上旬に株式会社朝日ラバーにてインターンシップに参加しました。朝日ラバーは光学事業、医療事業、機能事業、通信事業と様々な分野における工業用ゴム製品の製造・販売を手掛けている会社で、福島県内の4つの工場で製造を行っています。私は医療用、通信用ゴムの開発、製造を行っている白河第二工場で実習をさせていただきました。今回は製造部に5日間、技術部に3日間、品質管理部に2日間と、この工場におけるすべての職種の業務内容を体験させていただきました。まず製造部では、前半は注射器や点滴に使われている医療用ゴムの製造現場で、 unnecessaryな部分を切り離す仕上げ作業、目視検査を体験し、後半はリネンタグという洗濯可能な耐久性の高い金属タグの製造現場で、製造機の手入れと簡単なエラー対応の作業を体験しました。技術部では、ゴムを接着するための高度技術を用いた製品の手作り作業、新製品の試作品の作りを体験し、品質管理部では、高倍率の電子顕微鏡や、試料の硬さを測る機械など様々な高精度測定器を使った検査を体験させて頂きました。

今回のインターンシップを通して特に学んだこ

とは、正しく優先順位をつけてスケジュールを立てることの重要性です。例えば技術部では、個人個人が様々な種類の仕事を同時並行で行っています。社員の方々は、新製品の開発や試作、手作りによる作業、製造機の調整や改良など、様々な仕事がある中でも一人ひとりが工夫して、優先順位をつけて上手にスケジュールを立てていました。私も、将来仕事をしていく上では優先順位を正しくつけて、上手に仕事を回していく力を身につけたいと思いました。

この他にも、今回のインターンシップでは様々なことを各部署での実習で学ばせていただきました。今回の経験を忘れずに、今後の学生生活を送りながら、将来どのような仕事をしたのかをじっくり考えたいと思います。



インターンシップを終えて

産業技術システム工学専攻 化学・バイオ工学コース1年 菅野 長貴

わたしは東北大学多元物質科学研究所笠井研究室でのインターンシップに参加しました。

笠井研究室では主に抗がん性ナノ薬剤によるドラッグデリバリーシステムの研究を行っています。

わたしは笠井研究室と共同研究を行っているため、今回のインターンシップでは、高専で合成したプロドラッグの評価を行いました。具体的には、質量分析によるプロドラッグ構造の評価、がん細胞を用いたナノ粒子の薬理効果の評価、表面修飾剤の添加や温度変化によるナノ粒子の形態制御などの実験を行いました。初日から複数の実験を並行して進めていく必要がありましたが、研究室のみなさんから丁寧に指導いただき、多くの成果を得ることができました。今回の実験で新たな発見があったほか、研究室のみなさんと話し合ったことにより新たな仮説などを得ることができ、今後の研究の進め方を決めることができました。

一か月間のインターンシップ中に、研究室のみなさんとコミュニケーションをとって行く中で、大学院での生活や、大学院受験の際のお話などについてお話を聞くことができました。わたしも笠

井研究室に進学を志望しているため、みなさんのお話は大変参考になりました。また、研究を進めていく中でのデータ処理や参考となる論文、実験方法や実験中に注意すべきポイントなどを教えていただきました。

インターンの初日は緊張していましたが、研究室のみなさんはとても親切で、すぐに馴染むことができました。また、研究所内での交流のための野球観戦や、新しく研究室にいらした方の歓迎会や大学院入試の慰労会を合わせたパーティーなどにもご一緒させていただき、交流を深めることができました。

研究活動等でお忙しい中、インターンシップをお受け頂いた笠井先生、研究生の方々への感謝をもちまして、インターンシップ報告とさせていただきます。



インターンシップ報告

産業技術システム工学専攻 社会環境システム工学コース1年 川上 萌依

私は、8月30日から9月12日までの間、公益財団法人東京都都市づくり公社のインターンシップに参加させていただきました。東京都都市づくり公社は魅力的な東京の発展に貢献するため、土地区画整理事業や下水道などの公益目的事業と、収益事業として地域活性化事業を行っています。私は公社という団体がどのような事業を行っているのか、どのような環境で働いているのかということに興味があり、都市づくり公社のインターンシップを希望しました。今回のインターンシップでは総務部、区画整理部、事業推進部の業務を約2日間ずつ体験させていただきました。

総務部では都市づくり公社の事業の説明の他、都市づくり調査室の技術担当の方が実際に相談を受けた現場の調査を行いました。造成地の斜面の補強の仕方はこれで大丈夫であるかなどの相談を行政から受け、調査をし、回答していく業務であるため、より東京都民の力になることができる仕事であると感じました。区画整理部では日野市での区画整理を行っている地区の現地踏査、西平山地区でのまちづくりの検討を行いました。現地踏査では区画整理の重要性や、授業ではわからない

区画整理のやりがいを感じることができ、区画整理という仕事に興味を持ちました。事業推進部では支払業務と緊急修繕対応の体験、ビルの現場周回を行いました。実際の業務の一部を体験させていただき、都市づくり公社の職場の雰囲気などを感ずることができました。

今回のインターンシップを通して、学校で学んでいる知識の重要性を改めて感じることができました。社員の皆様とコミュニケーションをとる機会が多かったため、都市づくり公社のことだけでなく就活のことなどもアドバイス頂きました。この経験を活かして、これからの進路選択や勉学に一層精進していこうと思いました。

お忙しい中、インターンシップを引き受けていただきました東京都都市づくり公社の皆様へ御礼申し上げます。



インターンシップは成長の機会 ビジネスコミュニケーション専攻 ビジネスコミュニケーション学コース 1年 北郷 みなみ

私は、9月5日から9日までの5日間、京セラコミュニケーションシステム株式会社で、ICT事業におけるシステムエンジニアの提案業務を経験しました。少人数のチームに分かれ、顧客からの依頼をもとに、システムの概要、工数、予算などをまとめた提案書を作成し、プレゼンテーションを行うという内容でした。チームでの話し合いが主な活動でしたが、作業に関する質問や、交流会、日報を通して、社員の方々と交流する機会をとれました。

5日間のインターンシップのなかで、私は、積極的に質問をすることを目標に掲げました。その結果、単なる就活のための情報収集ではなく、成長の機会としてインターンシップを活用することができたと感じています。特に、「コミュニケーション能力」を成長させる上で、社員の方々に積極的に質問したことで、数々のアドバイスを得られたのは大きな収穫でした。

システムエンジニアに最も必要なのは、コミュ

ニケーション能力だそうです。自分自身、実際に提案業務を体験する中で、顧客の要望を正しく理解したり、チームで意見を共有したりするうえで、コミュニケーションの重要性と、その難しさを身をもって体感しました。社員の方にアドバイスを求めたところ、「コミュニケーションをとることは難しいということを念頭に置くように」と教えていただきました。社員のみなさんも、もともとコミュニケーション能力が高かったわけではなく、先輩の助言や書籍の情報をもとに工夫していく中で培っていったそうです。実際、社員の方々が下さるアドバイスはどれも具体的でわかりやすく、試行錯誤の跡が感じられました。

この経験から、「働く」ことは、自分が思っていた以上に、「成長」や「学び」と結びついているのだと知ることができました。今後の学生生活では、どんな自分に「成長」していきたいのかということを具体化していくことで、「働く」ビジョンを明確にしていきたいと考えています。



インターンシップ協力企業等一覧 ご協力に感謝申し上げます

(学科別に順不同)

本科

機械システム工学科

e. TEAM ANA
P&G株式会社高崎工場
TMES株式会社
アイリスオーヤマ株式会社
アルプスアルパイン株式会社
いわき市役所
オムロン フィールドエンジニアリング株式会社
花王ロジスティクス株式会社
株式会社MBM
株式会社奥村組
株式会社シマノ
株式会社タダノ
株式会社フソウ
関西電力株式会社
キヤノン株式会社
サントリーホールディングス株式会社
東急電鉄株式会社
東京大学先端科学技術研究センター
東芝プラントシステム株式会社
日東電工株式会社
日本原子力研究開発機構
日本ゼオン株式会社
日立造船株式会社
ファナック株式会社
フードテクノエンジニアリング株式会社
富士工業株式会社
ムラテックCCS株式会社

電気電子システム工学科

NECネットエスアイ株式会社
アイリスオーヤマ株式会社
株式会社JERA
株式会社シー・エム・エス
株式会社シグマ
株式会社ナイス
株式会社東日本計算センター
株式会社マイスターエンジニアリング
サントリーホールディングス株式会社
東京大学先端科学技術研究センター
東京電力ホールディングス株式会社
東京都下水道サービス株式会社
長岡技術科学大学
日本原子力発電株式会社
パナソニックオートモーティブシステムズ株式会社
フードテクノエンジニアリング株式会社
福島コンピューターシステム株式会社
富士通グループ
三菱電機ビルソリューションズ株式会社
メルクパフォーマンスマテリアルズ合同会社

化学・バイオ工学科

P&G株式会社高崎工場
アイリスオーヤマ株式会社
旭化成株式会社
出光興産株式会社千葉事業所
エヌ・ティ・ティ・インフラネット株式会社
花王株式会社
株式会社LIXIL
株式会社クレハ分析センター
公益財団法人ふくしま海洋科学館
城北化学工業株式会社いわき工場
第一三共ケミカルファーマ株式会社
東亜合成株式会社広野工場
東京農工大学
日本原子力研究開発機構
物質・材料研究機構

都市システム工学科

JFEシビル株式会社
いわき市役所
応用地質株式会社
鹿島クレス株式会社東日本支社
株式会社アサノ大成基礎エンジニアリング
株式会社東コンサルタント
株式会社大阪防水建設社
株式会社大和田測量設計
株式会社郡山測量設計社
株式会社小島組
株式会社ザイマックス
株式会社砂子組
株式会社日水コン
株式会社ピーエス三菱東京土木支店
株式会社福山コンサルタント
極東興和株式会社
公益財団法人福島県下水道公社
国土交通省東北地方整備局磐城国道事務所
生和コーポレーション株式会社
東京ガスネットワーク株式会社
ドービー建設工業株式会社
長岡技術科学大学
新潟大学
西松建設株式会社
日鉄環境株式会社
日本工営株式会社
日本製鉄株式会社
舞鶴工業高等専門学校社会基盤メンテナンス教育センター
三菱地所コミュニティ株式会社
森トラスト・ビルマネジメント株式会社
山北調査設計株式会社

ビジネスコミュニケーション学科

LG Retail Enterprises, Inc
NTTコム エンジニアリング株式会社
SEKAI HOTEL株式会社
アルプスアルパイン株式会社
イオン株式会社
いわき芸術文化交流館アリオス
いわき市役所
エムオーテックス株式会社
株式会社Grune
株式会社Ri-spekt
株式会社おのざき
株式会社シー・エム・エス
株式会社タスク
株式会社ツクイ
株式会社ハニーズホールディングス
株式会社マルト
北茨城市役所
田村市役所
特許業務法人創成国際特許事務所
ハイランドリゾート株式会社
福島県いわき地方振興局

専攻科

JX金属株式会社
NTTコム エンジニアリング株式会社
いわき市役所
エヌ・ティ・ティ・インフラネット株式会社
応用地質株式会社
株式会社Ri-spekt
株式会社朝日ラバー
株式会社ザイマックス
株式会社日水コン
株式会社メンバーズ
関西電力株式会社
京セラコミュニケーションシステム株式会社
公益財団法人東京都都市づくり公社
サントリーホールディングス株式会社
住友化学株式会社千葉工場
仙台市都市整備局
東罐興業株式会社
東京電力ホールディングス株式会社
東北大学
日本原子力研究開発機構
三菱地所プロパティマネジメント株式会社
メディア総研株式会社

女子中高生の理系進路選択支援プログラム

輝くりけじょを育てるプログラム ～ひとつ、ひとつ、実現するふくしま～

本校は今年度、JST公募事業「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」に採択されました。この事業は女子中高生の理工系分野に対する興味・関心を高めるとともに、保護者・教員等を含め理工系分野への進路選択に関する理解を促進し、文理選択や将来の進路に迷っている女子中高生を支援することを目的としています。

本校ではテーマを「輝くりけじょを育てるプログラム～ひとつ、ひとつ、実現するふくしま～」とし、福島県教育委員会をはじめ、民間企業、大学、研究所、地方自治体等と連携し、6つの体験プログラムを実施しています。

今年10月までに、産業技術総合研究所福島再生可能エネルギー研究所見学（7月、10月実施）、企業1 day インターンシップ（8月実施）、空き家リノベーションワークショップ（8月、9月実施）、福島高専での研究体験（随時）を実施いたしました。他にも、研究・技術・技能を職業とする女性、女子大学院生との交流会や、中学校や地域での出前授業を今後実施する予定です。これらの6つの体験プログラムは、来年度までの2年間、継続的に実施していきます。

体験プログラムを通じて、参加した県内の女子中高生及び保護者・教員等が、研究職・技術職・技能職に興味を持ち、「理工系の進路・職業選択に性別は関係ない」と意識を変えていただくことに少しでも力になれるよう、今後も事業を展開してまいります。



産業技術総合研究所（FREIA）見学



ユニ・チャームプロダクツ福島工場での体験
（企業1 dayインターンシップ）



「こて」を使った壁塗り体験
（空き家リノベーションワークショップ）



電子顕微鏡を使用した研究体験
（福島高専）

サイエンスフェスティバルに出展

本校では、地域貢献事業の一環として、県内外からの要望によりイベントへの出展を行っています。

昨年度に引き続き、令和4年4月30日（土）、5月1日（日）、7月16日（土）の3日間、エネルギー研究会と電気電子システム工学科の学生が、郡山市ふれあい科学館スペースパークで開催された「サイエンスフェスティバル」において実験コーナーと工作コーナーを出展しました。

実験コーナー「電気をつくって・ためて・つかってみよう」では、手回し発電機で作った電気をスーパーキャパシタにため、ためた電気でミニ四駆を走らせる実験を行いました。

工作コーナー「光で固めて作るストラップ」では、UVレジン液を使ってパズルのピース状にデザインされたアクリル板に電子部品を埋め込んでオリジナルストラップを作製しました。

当日はたくさんの親子連れが本校ブースに訪れ、実験や工作を楽しみました。また、いわき市外の方にも本校を知っていただく良いきっかけとなりました。

本校では多くの方にモノづくりの楽しさをお伝えできるよう同様の実験や工作を出前授業や出展により行っています。ご希望がございましたら、総務課地域連携係までご相談ください。



実験コーナー
「電気をつくって・ためて・つかってみよう」の様子



工作コーナー
「光で固めて作るストラップ」の様子

公開講座「ゴム動力水陸両用車の製作」を開催

7月23日（土）に、公開講座「ゴム動力水陸両用車の製作」を本校実習工場で開催しました。この講座は、小学3年生から6年生までが対象となっており、25名の小学生が参加しました。

本講座は、軸に輪ゴムを巻き付けて水車兼用の車輪を回転させることで、陸上でも水上でも走ることのできる模型を製作するものです。はじめにゴムの性質等について担当技術職員から説明を受けた後、実際に水陸両用車を製作する作業を行いました。受講生は本校で準備した部品を接着剤などで組み立て、全員、模型を完成させることができました。

模型を製作した後は、陸上および水上での試走会を行いました。また、実習工場内の工作機械なども見学してもらい、本校のモノづくりの現場を理解してもらいました。

本校では、今後も小中学生に興味を持っていただけるような様々な公開講座の開催を予定しています。最新の情報は本校HPに掲載いたしますので、興味のある方はご確認ください。



組立の様子



完成品



試走（陸上）



試走（水上）

第59回東北地区高等専門学校体育大会結果

■陸上競技 (男子)

学校対抗	箱崎 優大 (4M)	第1位
100m	齋藤 優太郎 (5E)	第2位
400m	船山 優貴 (3T)	第3位
800m	木村 凌太郎 (2T)	第3位
1500m	小寺 歩夢 (2T)	第4位
5000m	木村 凌太郎 (2T)	第1位
110m H	阿部 拓人 (3E)	第2位
3000m SC	佐藤 幹央 (2M)	第1位
4×100m リレー	加藤 大輝 (1E)	第5位
4×400m リレー	箱崎 優大 (4M)	第1位
走高跳	山田 勇尊 (3B)	大会新記録
棒高跳	阿部 拓人 (3E)	第2位
走幅跳	(齋藤・箱崎・町屋・笠井)	第1位
三段跳	(齋藤・船山・町屋・箱崎)	第1位
砲丸投	下山 陽登 (3C)	第1位
円盤投	松本 安友武 (2M)	第4位
やり投	山田 勇尊 (3B)	第2位
	馬場 公佑 (1E)	第3位
	町屋 慶明 (4E)	第1位

(女子)

学校対抗	白石 遥菜 (4B)	第2位
100m	安斎 初佳 (5C)	第1位
400m	佐藤 瑠佳 (2B)	第2位
800m	石本 愛里 (1B)	第3位
1500m	三部 天香 (1C)	第4位
4×100m リレー	(白石・安斎・佐藤・三部)	第2位
走幅跳	安斎 初佳 (5C)	第2位
円盤投	佐藤 瑠佳 (2B)	第3位
やり投	國井 杏夏 (3B)	第2位

■バスケットボール (男子)

福島	41-87	仙台名取
福島	42-87	秋田
福島	44-76	仙台名取
福島	38-84	秋田

(女子)

■バレーボール (男子)

予選リーグ	福島 2-0 仙台広瀬	Bブロック 第2位
	福島 0-2 一関	

決勝トーナメント (女子)

予選リーグ	福島 2-1 八戸	最終結果 第3位
	福島 2-0 仙台名取	第1位
決勝トーナメント	福島 2-0 秋田	
	福島 2-0 仙台名取	

■ソフトテニス

団体戦		第1位
男子個人戦	猪狩 浩葵 (2E)	第1位
	橋本 大知 (3T)	
女子個人戦	黒澤 優彩 (4C)	第3位
	梅津 柚花 (3T)	

■テニス (男子)

団体戦		第1位
ダブルス	鈴木 悠斗 (4T)	第3位
	黒木 理都 (4B)	

(女子)

団体戦		第1位
シングルス	佐藤 可葉 (3B)	第3位
ダブルス	佐藤 琴心 (4B)	第2位
	岩崎 由芽花 (5B)	第3位
	佐々木 綾乃 (3B)	
	鈴木 ひかり (3B)	

■柔道

個人戦	八巻 広陵 (4C)	1回戦敗退
無差別級トーナメント		

■サッカー

予選	福島 1-0 八戸	第2位
決勝	福島 1-1 秋田 (PK勝利)	
	決勝 福島 0-3 一関	

■水泳競技 (男子)

学校対抗	小針 聡真 (5C)	第3位
200m自由形	馬場 隼 (4E)	第4位
400m自由形	鈴木 悠磨 (1M)	第3位
800m自由形	重村 知樹 (1M)	第3位
100mバタフライ	渡邊 瑞樹 (3M)	第5位
100m背泳ぎ	西山 遙人 (1M)	第2位
200m背泳ぎ	渡部 剛大 (1M)	第5位
100m平泳ぎ	関内 悠輝 (4E)	第3位
200m平泳ぎ	酒井 優磨 (1M)	第4位
200mバタフライ	渡邊 瑞樹 (3M)	第5位
200m個人メドレー	西山 遙人 (1M)	第3位
4×100mフリーリレー	(西山・渡部・庄野・小針)	第1位

(女子)

学校対抗	渡邊 まこ (5B)	第1位
50m自由形	柳内 美瑠 (4T)	第1位
100m自由形	鈴木 友菜 (1B)	第4位
200m自由形	工藤 美瑠 (4T)	第2位
50m背泳ぎ	柳内 波 (3C)	第3位
100m背泳ぎ	鈴木 友菜 (1B)	第3位
100m平泳ぎ	伊東 渡邊 まこ (5B)	第2位
50mバタフライ	鈴木 華音 (1T)	第3位
100mバタフライ	伊東 茜音 (2T)	第3位
4×50mリレー	(伊東・佐藤茜音・渡邊まこ・鈴木友菜)	第1位
4×100mフリーリレー	(工藤・柳内・菅野・渡邊まこ)	第1位
4×50mメドレーリレー	(伊東・鈴木華・渡邊まこ・鈴木友菜)	第1位

■剣道 (男子)

団体戦		第2位
個人戦	宗像 和希 (2M)	第3位

(女子)

団体戦		第2位
個人戦	金澤 唯奈 (5C)	第1位
	須藤 翠 (2C)	第2位

■バドミントン (男子)

団体戦		第2位
ダブルス	三本 菅由泰 (5M)	第2位
	若松 恒佑 (5M)	

(女子)

団体戦		第3位
シングルス	大石 愛陽 (1T)	第1位
ダブルス	小林 莉瑠 (2C)	第3位
	大石 愛陽 (1T)	

■卓球 (男子)

団体戦		第1位
ダブルス	松本 拓樹 (5T)	第2位
	緑川 詩音 (5C)	

(女子)

団体戦		第3位
シングルス	大石 愛陽 (1T)	第1位
ダブルス	小林 莉瑠 (2C)	第3位
	大石 愛陽 (1T)	

第57回全国高等専門学校体育大会結果

■陸上競技

◎弓削商船高専 (愛媛県総合運動公園陸上競技場「エンジニアスタジアム」)

(男子)

学校対抗	箱崎 優大 (4M)	第13位
400m H	町屋 慶明 (4E)	第2位
走幅跳		第2位
4×400m リレー	(齋藤・松本・町屋・箱崎)	第4位

■バレーボール

◎新居浜高専 (愛媛県総合運動公園体育館)

(女子)

予選リーグ	福島 0-2 鈴鹿	予選リーグ敗退
	福島 2-1 木更津	

■剣道部

◎阿南高専 (とくぎんトモニアリーナ (徳島市立体育館))

(男子)

団体戦	予選リーグ	第2位
個人戦	宗像 和希 (2M)	1回戦敗退

(女子)

個人戦	須藤 翠 (2C)	2回戦敗退
	金澤 唯奈 (5C)	3回戦敗退

■ソフトテニス

◎香川高専 (高松) 香川県総合運動公園テニスコート

(男子)

団体戦		予選リーグ敗退
男子個人戦	猪狩 浩葵 (2E)	
	橋本 大知 (3T)	3回戦敗退

■水泳

◎新居浜高専 (アクアパレットまつやま)

(男子・タイム決勝)

400m自由形	馬場 隼 (4E)	第18位
800m自由形	西山 遙人 (1M)	第3位
200m背泳ぎ	西山 駈 (3C)	第20位
100mバタフライ	渡邊 瑞樹 (3M)	第20位
200mバタフライ	渡邊 瑞樹 (3M)	第12位
200m個人メドレー	西山 遙人 (1M)	第5位

■水泳 (女子・タイム決勝)			
50m自由形	渡邊 まこ (5B)	第14位	
100m平泳ぎ	渡邊 まこ (5B)	第10位	
4×50mフリーリレー	(伊東・工藤・柳内・菅野)	第8位	
4×50mメドレーリレー	(伊東・鈴木華・渡邊まこ・鈴木友菜)	第6位	

■卓球 ◎高知高専 (高知県立県民体育館)			
(男子)			
団体戦		ベスト 8	
ダブルス	松本 拓樹 (5T)		
	緑川 詩音 (5C)		棄権
(女子)			
個人戦		ベスト 8	
シングルス	浅川 胡桃 (4B)	予選敗退	
ダブルス	岡田 紗季 (2T)		
	渡邊 順子 (5B)		
	浅川 胡桃 (4B)	ベスト 8	

■テニス ◎阿南高専 (大神子病院しあわせの里テニスセンター)			
(男子)			
団体戦		1回戦敗退	
(女子)			
団体戦		第3位	
ダブルス	佐藤 琴心 (4B)		
	岩崎由芽花 (5B)	1回戦敗退	

■サッカー ◎香川高専 (詫間) (高松市立東部運動公園)			
福島 0-0 阿南 (PK 2-4)		1回戦敗退	

■バドミントン ◎香川高専 (詫間) (丸亀市民体育館)			
(男子)			
ダブルス	三本菅由泰 (5M)		
	若松 恒佑 (5M)	1回戦敗退	
(女子)			
シングルス	大石 愛陽 (1T)	ベスト 8	

第68回福島県高等学校体育大会結果

■陸上競技 (男子)			
走高跳	下山田陽登 (3C)	第7位	
■ソフトテニス (男子)			
団体戦	猪狩 浩葵 (2E)	3回戦敗退	
個人戦	橋本 大知 (3T)	ベスト16	
(東北大会出場決定戦)		4回戦敗退	
	宮澤 宏遙 (1E)	2回戦敗退	
	齋藤 權里 (1E)	2回戦敗退	
■卓球競技 (男子)			
シングルス	清野 雅仁 (1M)	2回戦敗退	
■剣道 (男子)			
団体戦	高瀬 弘嗣 (1T)	2回戦敗退	
個人戦	鈴木 勇作 (2T)	1回戦敗退	
■剣道 (女子)			
団体戦		1回戦敗退	
■バドミントン (男子)			
シングルス	柴宮 颯 (3E)	2回戦敗退	
ダブルス	草野聡一郎 (3E)		
	柴宮 颯 (3E)	2回戦敗退	

■バドミントン (女子)			
団体戦		1回戦敗退	
シングルス	大石 愛陽 (1T)	2回戦敗退	
■弓道競技 (男子)			
団体競技	坂本 彪悟 (3M)	予選敗退	
個人競技	長谷野将吾 (3T)	予選敗退	
	笠間 一希 (2M)	予選敗退	
■弓道競技 (女子)			
個人競技	小野 咲来 (3C)	予選敗退	
	助川 花怜 (3C)	予選敗退	
■水泳 (男子)			
◎第57回福島県高等学校新人体育大会水泳競技大会			
200m背泳ぎ	渡部 剛大 (1M)	決勝第8位	
100m平泳ぎ	酒井 優磨 (1M)	決勝第7位	
200m平泳ぎ	酒井 優磨 (1M)	決勝第6位	
200m個人メドレー	西山 遙人 (1M)	決勝第5位	
	(東北大会出場)		
400m個人メドレー	西山 遙人 (1M)	決勝第4位	
	(東北大会出場)		
4×100mメドレーリレー	(渡部・酒井・西山・庄野)	決勝第8位	

インカレ大会結果

■陸上競技 (男子) ◎第75回東北学生陸上競技対校選手権大会			
110m H	箱崎 優大 (4M)	第4位	
走幅跳	町屋 慶明 (4E)	第2位	

東北高等学校体育大会結果

■陸上競技 (男子) ◎第27回東北高等学校新人陸上競技選手権大会			
八種競技	松本 安友武 (2M)	第12位	
■水泳 (男子) ◎第70回東北高等学校選手権水泳競技大会			
400m個人メドレー	西山 遙人 (1M)	予選 第14位	
200m個人メドレー	西山 遙人 (1M)	予選 第16位	

福島県総合体育大会結果

◎第75回福島県総合体育大会			
■陸上競技 (男子)			
110mH	箱崎 優大 (4M)	第2位	
400mH	箱崎 優大 (4M)	第5位	
■ソフトテニス			
男子個人戦			
	猪狩 浩葵 (2E)		
	橋本 大知 (3T)	3回戦敗退	
	若松 悠斗 (3E)	1回戦敗退	
	栗原 幸詩 (2T)		
	大谷 直希 (2M)	1回戦敗退	
	堀田 宏遙 (1E)		
	宮澤 權里 (1E)	1回戦敗退	
■水泳 (男子)			
200m平泳ぎ	酒井 優磨 (1M)	決勝第8位	
4×100mメドレーリレー	(西山・八木・渡邊・酒井)	タイム決勝12位	
4×100mフリーリレー	(西山・八木・酒井・渡邊)	タイム決勝14位	
■弓道競技 (男子) (少年の部)			
遠的競技	坂本 彪悟 (3M)	第3位	
個人競技	(坂本・笠間・長谷野)		
団体競技		第9位	
■卓球 (少年の部)			
男子シングルス	清野 雅仁 (1M)	ベスト16	
女子シングルス	岡田 紗季 (2T)	3回戦敗退	

各協会・連盟主催大会等

■ソフトテニス (男子) ◎ハイスchoolジャパンカップソフトテニス2022福島県代表選考大会			
シングルの部	猪狩 浩葵 (2E)	2回戦敗退	
ダブルスの部	猪狩 浩葵 (2E)		
	橋本 大知 (3T)	ベスト16	
■卓球 ◎令和4年度全日本卓球選手権大会福島県予選会			
男子シングルス (ジュニアの部)	清野 雅仁 (1M)	2回戦敗退	
男子シングルス (一般の部)	清野 雅仁 (1M)	2回戦敗退	
	水竹 巧 (4E)	2回戦敗退	

各種大会等の結果

■将棋部 ◎第58回全国高等学校将棋選手権大会福島県大会			
個人戦	大塚 章最 (2C)	ベスト8	
◎第29回全国高等学校専門学校将棋大会			
団体戦	柳沼 真人 (5E)	準優勝	
	久保木啓丞 (4E)		
	大塚 章最 (2C)		
個人戦	青木 柚繁 (3T)		
	決勝トーナメント 1回戦敗退		
	大塚 章最 (2C)		
	決勝トーナメント 1回戦敗退		
	小高 寧生 (3C)	予選敗退	
	柳沼 真人 (5E)	予選敗退	
	小澤 慎海 (3B)	予選敗退	
■吹奏楽部 ◎第60回福島県吹奏楽コンクール大学の部			
		銀賞	
■演劇部 ◎令和4年度いわき地区演劇発表会			
		参加	
■茶華道部 ◎いわき学校茶道連盟第51回合同発表会			
		参加	
■エネルギー研究会 ◎2022ワールド・グリーン・チャレンジ			
	Sun Shine IWAKI		
	ソーラーカー・チャレンジ エンジョイ・クラス	第5位	
■サイクリング部 ◎第54回福島県サイクルスポーツ大会			
		参加	

鈴木茂和准教授が令和3年度国立高等専門学校教員顕彰で理事長賞を受賞しました

本校、機械システム工学科の鈴木茂和准教授が、「廃炉を通じた技術者育成と地域貢献」により、令和3年度国立高等専門学校教員顕彰において、一般部門の理事長賞を受賞しました。

国立高等専門学校教員顕彰とは、学校の管理運営、地域社会への貢献及び学生教育を中心とする分野において顕著な功績を挙げている教員を顕彰するもので、理事長賞は各顕彰部門において、文部科学大臣賞に次ぐ業績を挙げている教員に贈られる賞です。

鈴木准教授は、全国の国公立高専生を対象とした、福島第一原子力発電所の廃炉に向けた課題を解決するための「廃炉創造ロボコン」を全国の高専教員と連携して立ち上げ、廃炉に関する人材育成、技術者育成に貢献したこと、また、福島県の補助金を活用して、地元企業と連携し廃炉作業での活用に向けたロボット開発を実施しており、地元企業の成長に貢献したことが高く評価されました。

この功績をたたえ、令和4年4月27日、高専機構本部竹橋オフィスがある学術総合センターにおいて、教員顕彰 顕彰式が執り行われ、谷口功理事長から表彰状及び副賞が贈呈されました。



(前列左から2番目：鈴木茂和准教授)



学術総合センターでの顕彰式



山下校長(左)に受賞の報告を行う鈴木准教授

福島県警察本部から「サイバー防犯ボランティア」の委嘱を受けました

本校学生有志が「サイバー防犯ボランティア」の委嘱を受けることになり、7月13日(水)に、本校において「サイバー防犯ボランティア委嘱状交付式」が行われました。

交付式では、笠井哲副校長(学生主事)、島村浩情報処理教育センター長立合いのもと、福島県警察本部サイバー犯罪対策室の黒須英昭室長から、2～4年生の防犯ボランティア28名の代表として、ビジネスコミュニケーション学科2年村山くるみさんに委嘱状が手渡されました。

黒須室長からは、「現在、ほとんどの人がスマートフォンなどでインターネットを使うようになり、サイバー犯罪は右肩上がり増加している。いつどこで犯罪が起きているかわからないため、皆さんには何かあったらすぐ通報いただき、サイバー空間の安心・安全を共に守ってほしい。」と話がありました。

今後、委嘱を受けた学生たちは、サイバー防犯ボランティアとして、サイバーパトロールや犯罪被害防止のための広報啓発活動、小中学生に対する情報モラル教室などを実施します。任期は2023年3月31日までとなっており、活躍が期待されます。



黒須室長から委嘱状を受け取る村山さん



福島県警察本部、いわき中央警察署の皆様と委嘱を受けた学生

東洋システムと連携し「カーボンニュートラル社会連携講座」を開設します

福島高専では、東洋システム株式会社と共同で申請した経済産業省事業「高等教育機関における共同講座創造支援事業費補助金」が採択されたことに伴い、8月5日（金）に本校大会議室において「カーボンニュートラル社会連携講座」の開設について、共同で記者会見を行いました。

初めに東洋システム株式会社 庄司代表取締役より、講座設立に至った経緯の説明があり、「カーボンニュートラルへの取組が世界の流れとなっており、地元新しい産業を創出したい。講師は水素・蓄電池やビジネスの専門家が担当する予定であり、地元企業や高専の学生が新しい知識を学ぶことで、広い視野を持つ人間になっていただきたい。」との思いが語られました。

引き続き本校山下校長からは、「福島国際研究教育機構との連携が求められている中で、本校としてもカーボンニュートラルの知見を深めていきたい。学生もぜひともこの講座で多くのことを学んでほしい。」と語られました。

講座は、10月より地元企業の従業員と本校学生を対象として10回程度開催いたします。また、公開講座として一般の方も参加できる講座も開催する予定です。



山下校長（左側）と庄司代表取締役（右側）

STAGE:0 eSPORTS High-School Championship 2022で準優勝しました

高校対抗eスポーツの大会「STAGE:0 eSPORTS High-School Championship 2022」のVALORANT（ヴァロラント）部門 全国大会において、本校機械システム工学科3年生5人で形成されたチーム「pops」が準優勝に輝きました。

ヴァロラントは5対5で対戦するシューティングゲームで、全国から参加した233チームがトーナメント方式で優勝を争いました。

チームリーダーの機械システム工学科3年 小野慶吾さんは、「決勝戦では悔しい思いをしたが、このメンバーで準優勝という結果を残せて満足している。」と話しました。

今回準優勝したチームのメンバーは以下の通りです。

チーム名：pops

メンバー：小野 慶吾（機械システム工学科3年）

菅原 丈（〃）

鈴木 周真（〃）

飛田 光海（〃）

脇田 結海（〃）



試合前の様子



大会終了後の記念撮影



賞状とトロフィー

全国高専将棋大会団体戦において本校将棋部が準優勝しました

8月24日～26日、北九州市のAIMビル（3F展示場、会議室）において第29回全国高等専門学校将棋大会が開催され、本校将棋部が団体戦で準優勝しました。

団体戦には32チームが参加し、各校3名によるレベルの高い対局が繰り広げられました。本校将棋部は、20年以上前の第3回、第5回、第6回大会に収めた3位が最高成績でしたが、今大会で初の決勝進出を果たし、準優勝という過去最高の成績を収めました。決勝戦では、プロ棋士の豊川孝弘七段と女流棋士の水町みゆ女流初段による大盤解説会も行われ、会場は大いに盛り上がりしました。

対局後、将棋部部長で団体戦副将の電気電子システム工学科4年 久保木 啓丞さんは、「過去最高の結果を出すことができ、とてもうれしいです。3人で力を合わせたことで勝つことができたと思います。」と話しました。

団体戦の出場選手は、以下の3名です。

大将：柳沼 真人

（電気電子システム工学科5年）

副将：久保木 啓丞

（電気電子システム工学科4年）

三将：大塚 章最

（化学・バイオ工学科2年）



本校将棋部と豊川七段（後左2番目）、水町女流初段（後右1番目）

廃炉創造ロボコン サマースクールを実施しました

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構（以下、原子力機構）及び廃止措置人材育成高専等連携協議会（会長：福島高専校長）が主催する「第7回廃炉創造ロボコン」を12月に控え、8月31日（水）、9月1日（木）の2日間の日程で、出場校を対象とした恒例のサマースクールが実施されました。

当日は、全国の高専生40名と関係者が、東京電力福島第一原子力発電所の視察や、大会会場となる原子力機構 楡葉遠隔技術開発センターでの研修、競技フィールドの確認等を行いました。また、IRID（技術研究組合国際廃炉研究開発機構）、株式会社アトックスからそれぞれ、廃炉ロボットの開発等に関する講義が行われ、現場で活躍するロボットを製作するにあたっての技術や課題について学びました。

廃炉創造ロボコンは12月10日（土）に開催が予定されており、競技課題のクリアに向けた創造的なロボット製作が期待されます。



競技フィールド確認の様子



施設見学



講義の様子

体験入学

コロナ禍で対面の体験入学が3年間実施されませんでしたが、本年度は分散対面方式で9月24日(土)、25日(日)に実施することができました。2日間で中学生336名、保護者等が203名、合計で539名の参加がありました。

24日(土)の午後は台風の影響により雨になりましたが、補助学生が誘導をスムーズに行い混雑することなく見学していただきました。

久しぶりの対面の体験入学で参加者の評価が懸念されましたが、90%以上の方から「教職員及び学生の対応が良かった」という回答をいただきました。来春の本校志願者が増えることを願うばかりです。

機械システム工学科



電気電子システム工学科



化学・バイオ工学科



都市システム工学科



ビジネスコミュニケーション学科



校内体育大会

令和4年9月27、28日、爽やかな秋晴れのもと、校内体育大会が盛大に行われました。新型コロナウイルスの影響により、令和2年度は縮小開催、令和3年度は中止となっており、3年ぶりに本来の形での開催ができませんでした。感染防止対策のため、観戦者数を大きく制限せざるを得ませんでしたが、参加選手は真剣かつ楽しんでプレーしており大きな盛り上がりを見せました。

競技はサッカー、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、ドッチボール、綱引き、玉入れ、学科対抗リレーの8種目で行いました。学年ごとでは、1、2年は機械システム工学科、3、4、5年は都市システム工学科がそれぞれ優勝し、総合優勝は都市システム工学科となりました。

本大会は体育大会実行委員長の大野陽生君（4年機械システム工学科）を中心とした実行委員会が企画運営を行い、各クラスの体育委員と関係クラブの学生の協力の中、クラス内や友人とのきずなを深める良い大会にすることができました。



福島K0SENコモンズ整備事業について

1962年に創立した福島高専は、今年度60周年を迎えました。福島高専60周年記念事業の一環として福島KOSEN commonsの整備を進めておりますので、この事業の概要についてご説明いたします。

現在の学内の設備は、使用目的に応じて空間（場所）が決まっています。例えば、授業を受けるなら教室、部活動をするなら部室（orグラウンドor体育館）、研究打合せなら教員研究室等です。これまでの学内活動は、目的が明確で異分野間の相互乗入れが少なかったので、このような設備でも特に不便は感じませんでした。しかしながら時代とともに分野横断的な活動が広がってきたことから、目的と空間を1対1で対応させることが難しくなって来ました。そこで「コモンズ」の登場です。「コモンズ」とは、特定の人や団体が所有することなく、誰でも自由に利用でき専有が許されない空間を指します。コモンズを整備することで、多種多様な人々が横断的にミーティングや創作活動を行うことができる空間づくりを目指します。

福島KOSENコモンズでは、3つのコモンズを整備することになっています。一つはイノベーションコモンズです。これは正面玄関から工学池を中心としたエリアをリニューアルし、学生・教職員・企業の方々・地域の方々が集う空間を構築します。これまで研究打合せに来校した方は直接教員研究室を訪れていましたが、これからはイノベーションコモンズで研究打合せを行い、同時に本校の学生を身近に感じて頂くことができます。二つ目はアカデミックコモンズです。図書館3Fの使用していない部屋を整備し、あらゆる教育研究活動で利用できる空間を構築します。ここは主に学生および教職員が対象になります。三つ目はインターナショナルコモンズです。令和3年に完成した「曙寮」1Fのラーニングスペースを改良し、留学生と学生が異文化交流をすることのできる空間を構築します。ここは主に留学生と寮生が対象になりますが、外部の方も参加可能なイベントも行います。

今般、創立60周年記念事業では記念募金を行なっておりますが、ご寄附いただいた基金の多くは福島KOSENコモンズの整備に活用させていただきます。これらのコモンズの実現により、福島高専は、人材育成の高度化・国際化を促進させ、人や社会にイノベーションをもたらすSocial Doctor（社会のお医者さん）を育成し、輝く未来社会の創造を先導してまいります。





化学・バイオ工学科 助教 **三上 進一**

令和4年4月1日付けで化学・バイオ工学科 助教に着任いたしました、三上進一と申します。この3月までは東北大学大学院に博士学生として在籍しておりました。他の教員の方々よりも学生の皆さんと歳が近いことを活かして、親しみやすく、それでいて頼り甲斐のある教員になっていければと思っております。

また、学生時代はベンゼンのような芳香族化合物の性質とその変換反応について研究をしておりました。福島高専でも引き続きこの分野を発展させるべく、学生の皆さんと協力しながら、共に楽しんで研究活動を行っていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



都市システム工学科 助教 **三浦 拓也**

都市システム工学科に着任しました三浦拓也です。3月までは、福島県三春町の（コミュタン福島と同じ施設内にある）国立環境研究所 福島地域協働研究拠点で勤務していました。故郷は宮城県の太平洋沿岸に面しており、学生の頃から研究で“東北復興に貢献したい”と思っていました。これまでは放射性物質をはじめとする有害物質等を溶液や土壌から取り除く研究や自然地盤を活用した廃棄物の最終処分場設計に関わる研究を行っておりました。

これからも、福島の“魅力”と“新しい発見”を発信し続けられるよう、皆さまと一緒に頑張っていきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。



都市システム工学科 助教 **相馬 悠人**

本年5月より都市システム工学科に着任しました相馬悠人と申します。これまでは大学院を修了した後、民間の研究機関に2年間ほど勤務しておりました。専門分野は計算力学と構造工学で、コンクリート構造物を対象とした破壊シミュレーションについて研究しています。講義では、構造力学や情報処理を担当しており、学習意欲がわき、主体的に取り組んでもらえる授業を心掛けていきたいと思っております。教員として働くことは初めてとなりますが、学生の皆さんとともに成長し、教育研究に励んでまいりますので、よろしくお願いいたします。



ビジネスコミュニケーション学科 特命助教 **大仁田 香織**

大仁田香織（おおにた かおり）と申します。専門は、コミュニケーション、動機づけ、マネジメントといった組織の中の人々の行動について、経営学を軸としながら、心理学、社会学等の分野を横断した研究をしています。民間企業に就職しましたが、実務経験のみでビジネスの課題を解決することの難しさを痛感し、学術的な知見を得るために大学院に進学し、現在に至ります。担当する復興知を活用した人材育成基盤構築事業を通じ、ビジネス・スペシャリストとなる学生の皆さんをサポートしていきたいと考えています。よろしくお願いいたします。



一般教科 助教 **泉類 尚貴**

4月1日付けで一般教科（英語科）に着任いたしました、泉類尚貴です。専門は英語学の一分野であるコーパス言語学・（歴史）社会言語学です。授業などに活かせるように、英語教育学の研究も積極的に進めています。

前期を終えて、学生のみなさんがひたむきに授業や課外活動に取り組む姿を目にし、多くの刺激をもらい、福島高専が恵まれた環境にあることを実感しました。みなさんの将来をより充実させるお手伝いができるように、尽力していきたいと思えます。最後に、私は「雑」談は存在しないと考えていますので、気軽に話してください。どうぞよろしくお願いいたします。

職員紹介



学生課 学生課長 **高橋 利枝**

この4月に岐阜高専から赴任しました。岐阜は夏には酷暑日が続く海なし県ですが、いわきは、潮風が吹き朝焼けがキレイですっかり魅了されています。

さて、福島高専と言えば、廃炉の活動を頑張っている高専というイメージがありますが、SDGs活動や文系の学科、女子学生が3割、いわき市が東北では仙台市に次ぐ人口が多い街等々、福島高専に来るまで知りませんでした。でも皆さんも、全国にアピール出来るところだと認識されていますか？外部者だからこそ見える福島高専の良いところを内外に紹介し、福島高専の発展にご協力出来たらと思っています。よろしくお願いいたします。



総務課 施設管理係 **鹿内 康熙**

令和4年4月1日付けで弘前大学より参りました鹿内康熙と申します。弘前大学では施設環境部という部署で電気設備工事や電気関連の業務に携わってきました。今回初めての異動先として福島高専に決まり、高専は大学とは違い多種多様な業務をこなす必要があるということで、期待と若干の不安が混じった複雑な気持ちでいたことが正直なところです。

新天地での日々を通して己のさらなるスキルアップを目指すと共に、電気担当施設系職員としての経験・知識を活かして福島高専の発展に貢献していきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



学生課 学生支援係 **青山 竜水**

4月1日付けで学生課学生支援係に着任しました青山竜水と申します。

山形県酒田市出身で、今年3月に東京の大学を卒業後、縁あって福島高専で働くこととなりました。春からいわき市に住み始めましたので初めてづくしの毎日ですが、出歩くたびに新しい発見があり日々楽しんでおります。

経験不足で至らない点も多々あると思いますが、日々の業務に誠心誠意打ち込み、学生の皆さんの期待に応えられるよう励んでまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



モノづくり教育研究支援センター 広域係プラクティス **石川 和磨**

本年4月にモノづくり教育研究支援センターに着任しました石川和磨と申します。

大学生生活の4年間を茨城(水戸→日立→東海)で過ごし、就職と同時に地元であるいわき市に戻ってまいりました。福島の桃が大好きです。

化学・バイオ工学科の実験支援を主に担当いたします。できないことだらけで教職員の方々にはご迷惑をおかけすることがあると思いますが、新しいことをたくさん吸収して、学生の皆さんに還元できることを増やしていきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。



行事予定(後期) ※新型コロナウイルス感染防止対策のため変更となる場合があります。

2022年

11月

3日(木) 創立60周年記念式典・記念講演会
4日(金) 磐陽祭準備
磐陽祭前夜祭
5日(土) 磐陽祭
9日(水) TOEIC-IP試験(3年生)
22日(火)～12月2日(金)
後期中間試験期間
26日(土) 専攻科社会人入試
27日(日) 全国高等専門学校
ロボットコンテスト2022 全国大会

12月

10日(土) 第7回廃炉創造ロボコン
10日(土)～11日(日)
第19回全国高等専門学校デザインコンペ
ティション2022in有明(福岡県大牟田市)
14日(水) 学生会役員選挙
24日(土) 福島県中学生ロボット競技会
冬季休業開始(1月4日(水)まで)
閉寮
27日(火) 学校閉鎖期間(1月3日(火)まで)

2023年

1月

4日(水) 開寮
5日(木) 授業開始
11日(水) 専攻科特別研究Ⅱ発表会(2年)
14日(土) 推薦入試
寮スポーツ大会

2023年

1月

21日(土) 卒業研究発表会(電気)
25日(水) 専攻科特別研究Ⅰ発表会(1年)
28日(土)～29日(日)
第16回全国高等専門学校英語プレゼンテー
ションコンテスト(東京都)
31日(火) 特別補講日

2月

1日(水) 特別補講日
2日(木)～8日(水)
後期期末試験期間
12日(日) 学力入試
15日(水) 後期授業最終日
16日(木)～20日(月)
補講期間
21日(火)～27日(月)
再試験期間
21日(火)～22日(水)
卒業研究発表会(ビジコミ)
24日(金) 卒業研究発表会(機械)
27日(月) 卒業研究発表会(化学・都市)
28日(火) 卒業研究発表会(化学)

3月

1日(水) 終業式・寮送別会・学生総会
3日(金) 閉寮
17日(金) 卒業証書授与式・修了証書授与式(いわき
芸術文化交流館アリオス)
※16日(木)開寮～18日(土)閉寮

入学試験の日程

本科

- 一般推薦 ならびに 課題達成型推薦 による選抜
WEB入力期間: 令和4年12月5日(月)～12月23日(金)
出願期間: 令和4年12月19日(月)～12月26日(月)
面接日: 令和5年1月14日(土)
内定通知日: 令和5年1月24日(火)
入学確約書提出期限: 令和5年1月31日(火)
- 学力検査による選抜・帰国子女特別選抜
WEB入力期間: 令和4年12月5日(月)～令和5年1月27日(金)
出願期間: 令和5年1月23日(月)～1月30日(月)
検査日: 令和5年2月12日(日)
合格発表日: 令和5年2月21日(火)
入学確約書提出期限: 令和5年2月28日(火)

専攻科

- 推薦による選抜
出願期間: 令和4年5月11日(水)～13日(金)
試験実施日: 令和4年5月20日(金)
(本校以外からの出願者のみ)
合格発表日: 令和4年5月26日(木)
入学確約書提出期限: 令和4年6月3日(金)
- 学力試験による選抜
出願期間: 令和4年6月8日(水)～10日(金)
試験実施日: 令和4年6月18日(土)
合格発表日: 令和4年6月23日(木)
入学確約書提出期限: 令和5年1月13日(金)
- 社会人特別選抜
出願期間: 令和4年11月16日(水)～18日(金)
試験実施日: 令和4年11月26日(土)
合格発表日: 令和4年12月1日(木)
入学確約書提出期限: 令和5年1月13日(金)

編集後記

福島高専「学校だより」第113号の発刊となりました。

本号にはたくさんのイベント記事が掲載されました。そこには「3年ぶり」という紹介が見られます。「コロナ禍」における対応として、これまで多くの学内外イベントが中止や規模縮小の措置が取られてまいりましたが、ここに来て、ようやく日常の多彩な活動が返ってきた感があります。今年、福島高専は開校60周年を迎えました。関係するイベントや「福島KOSENコモンズ整備事業」などの取組もあり、福島・いわきの地にある「福島KOSEN」の、これからの存在が楽しみです。